



浜松ユネスコ協会

UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.175

2019.12.20

発行：浜松ユネスコ協会
 発行人：会長 小島逞壯
 TEL(053)463-0458
 FAX(053)463-0458
 編集(広報委員会)阿部行俊

2019年度 中部東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 磐田

11月9日(土)・10日(日)

浜松ユ協 「科学教室・私のまちのたからもの展」を発表

第1分科会 テーマ：豊かな自然や地域遺産を次世代に繋ぐ
 ～郷土愛を育む取り組み～

第1分科会では、参加者60名を前に、浜松ユ協から山内登志弘氏が「科学教室」、加藤泰弘氏が「私のまちのたからもの展」の活動について発表しました。



山内氏は、科学教室の生い立ちから現在の活動のあらましを映像と共に紹介しました。さらに親子公園探検隊、山本自然科学賞のことも付け加え、幼い時から自然に対する親しみ、興味、感動を呼び起こすことを願いつつ「科学する心」を育てたいと発表しました。

加藤氏は、出品された代表作品を提示しながら、浜松の未来遺産として小さな絵に込められた子供たちの願いや、更に展覧会の趣旨、選考の様子、表彰式についても紹介しました。

後半の意見交換では、学校・教育委員会との関わり合いについて活発な意見交換が行われました。活動スタッフとなる当協会の会員からは「学校の授業ではやらないことが体験できる。活動すること自体が楽しい。勉強になっている。」「仕事とは別に社会貢献することも大切だと思う。」という発言がありました。今後、次世代に繋げるには、いかに若い人を育てるか、子供たちにどんな関わり合いをしていくかが大切なことだと思いました。

(大石幹子)

《研究会の概要》

民間ユネスコ活動について地域の枠を越え理解を深める「ユネスコ活動研究会」が磐田市（磐田グランドホテル）で開かれ、中部東地区の長野、山梨、神奈川、静岡の4県から参加した160名余りのユネスコ会員や市民が、講演や事例報告でユネスコ活動の在り方を学びました。浜松ユ協からは28名が参加しました。

研究会は、中心課題を「誰もが安全で安心な平和社会の中で希望を抱くために、今望まれるユネスコ活動」と据え、議論の足がかりを「子供たち、そして地域社会を通して次世代へつなぐ活動の重要性」と掲げました。



第1日目の基調講演では磐田ユ協会長で「NPO法人桶ヶ谷沼を考える会」理事長の今村信大氏が登壇。「未来へのユネスコ活動－原点は自然環境－」と題し、1時間余り講演が開かれました。カメラを携え沼に通う中で、トンボに興味を持ったことから語り始め、桶ヶ谷沼の自然や保護活動についても紹介がありました。その活動から見えてきた地球・地域社会の課題に触れながら話は進みました。「先進国の経済発展や近代化が真に人類の平和や福祉の促進となり得ているか。」「自然と共に生きている少数民族の生活、生き様を見習うべきではないか。」の問い掛けを重く受けとめてほしいと訴えました。

さらに、「自然環境についての根本的な捉え方が大事」と力説され、ユネスコ運動の方向性として「人類の生存基盤である地球、地球環境・自然再生へ価値観を置き、その上に立脚した活動が求められる。」との力強いメッセージで締めくくりました。

この他、当日は4テーマ構成の「分科会」も行われ、それぞれ、討議、ワークショップ、グループワークの形式で、現状報告や体験談を下に今後の課題などについて話し合われました。第2日目は、日本ユネスコ協会連盟のセミナーとして「青年活動報告」、「アフガニスタンにおける世界寺子屋運動報告」が行われ、閉会式へと移りました。

最後に、今研究会を主管した磐田ユ協のスタッフへ惜しめない労いの拍手が送られるなか、次回（来年11月7日 甲府市にて開催）を主管する甲府ユ協の紹介もあって無事閉幕となりました。ユネスコ活動の在り方を考える良い機会となりました。（三輪宜弘）



〈基調講演〉今村信大氏

出前講座「自然観察教室」～自然の不思議さにふれる感動を～

「チョウのふしぎ」 講師 安藤 隆敏氏

浜松市立白脇小学校 3年生総合的な学習

7月22日(月)

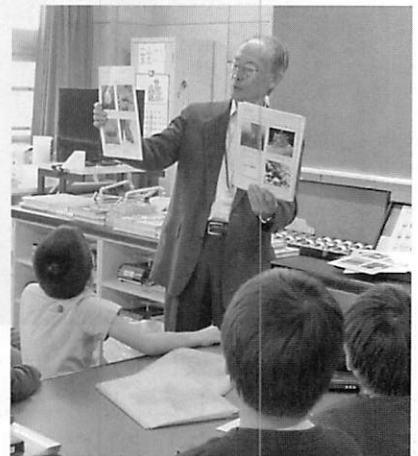


かつて勤務していたこの学校は、ユネスコ科学教室を再開させた頃でもあり、私自身が自然観察の勉強を始めた場所でもあります。

まず、当時、科学教室のスタッフが調査したことが基になって制定された「浜松市天然記念物 ギフチョウ」を紹介しました。そして、チョウは幼虫のときに食べる植物「食草」が種ごとに決まっていることから、実物を交えて観察しました。ウマノズクサを食べるジャコウアゲハの幼虫・卵、カタバミに付いているヤマトシジミの卵・幼虫、キジョランを食べるアサギマダラの幼虫、パンジーを食べるツマグロヒョウモンの幼虫・蛹などです。チョウと植物の密接な関係を示し、その不思議さを感じてもらいました。

さらに、偶然にも前日に春野町で発見した南方系のチョウ「イシガケチョウ」を通して気候変動による分布の変化も紹介しました。子どもたちは、理科で学習したモンシロチョウから「チョウの世界」を広げることができたようです。

以降、子どもたちは個別の課題を設定し、白脇地区の自然を植物・昆虫・水の中の生き物・宇宙の切り口



で調べ学習を進めることとなりました。これに合わせて、10月4日と11月11日には、「質問コーナー」の場を設定しました。そこでは、子どもたちが集めた植物の花や実、葉や生き物の同定や質問への回答を行いました。

保護者となった30数年前の教え子と再会したり、足下の自然を見つめる子どもたちの姿を見たりしたことで、かつて「しらわきの四季」の活動をしていたことが懐かしく思い出されました。

「秋になく虫たち」 浜松市立河輪小学校 2年生活科 10月9日(水)

文部省唱歌「虫のこえ」は今も歌い継がれてはいますが、登場する5種の虫について見たことがある子は少ないのが現状です。そこで、「秋に鳴く虫」について特別な見方をしてきた日本文化や鳴くメカニズムなどを映像と音とで紹介しました。

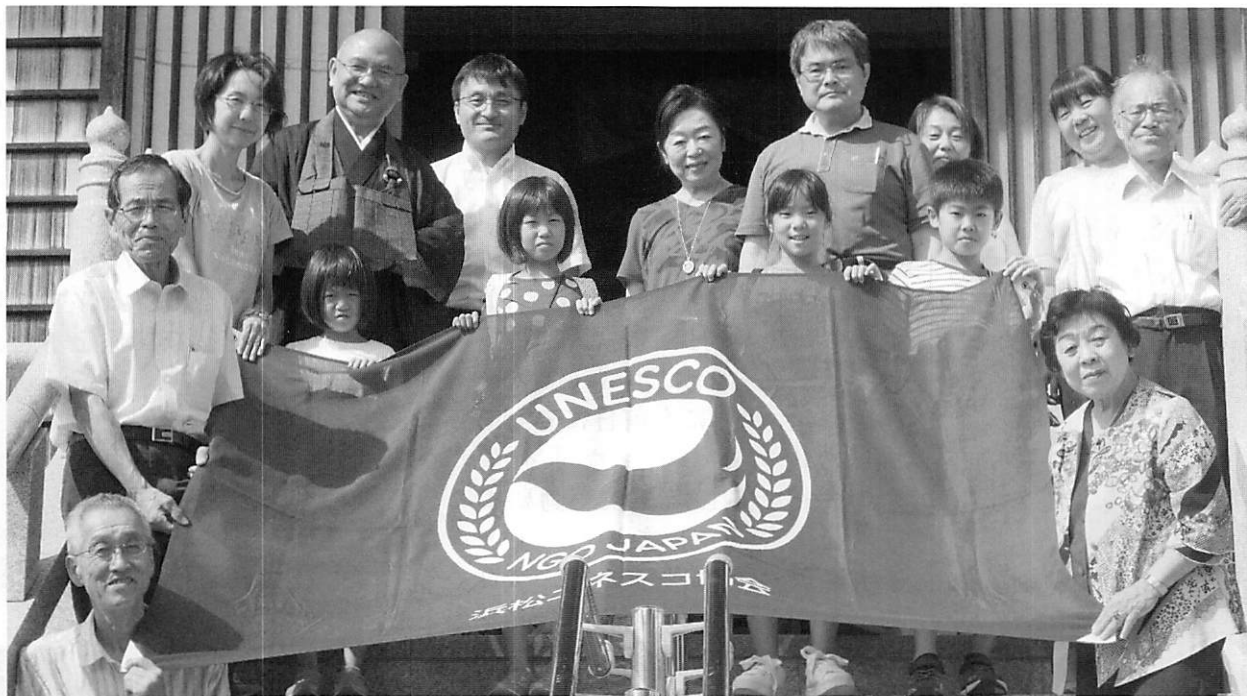
また、身近な自然にふれて欲しいので、この地区で見られるミツカドコオロギ、オカメコオロギ、ツツレサセコオロギ、カンタン、カネタタキ、ウスイロササキリなど、さらに分布を広げている帰化昆虫のアオマツムシ、タイワンクツワムシも紹介しました。46名の子どもたちの中には、昆虫が苦手という子もいたようですが、虫の不思議さを感じてくれたことが寄せられた感想文から分かりました。

最後に、3年生の理科で使えるようにと、キリギリスの卵を各学級にプレゼントしました。来年5月の孵化を子どもたちと一緒に待つことにします。



第5回 ユネスコ生涯学習セミナー 自分づくり講座 「自分らしさとは」 講師 仙林寺住職 杉山 晴康氏

8月26日(月)於：仙林寺(中区野口町)



参加児童を対象に木魚や鐘について話をうかがったあと、実際に木魚をたたいたり鐘をついたりする体験をしました。児童は木魚をたたいたり、鐘の大きさによって音の響きが違うことを感じながら鐘をついたりしました。

続いて般若心経を全員で読経しました。声をそろえることで参加者の気持ちがだんだんと一つになっていきました。また、お焼香の所作を学び、実際に行いました。

次に座禅です。座禅では、はじめに所作（合掌の仕方から入堂、隣や向かい人への挨拶、足や手の組み方、視線や姿勢などの一連）の動きを確認したのち、実際に座禅に挑戦をしました。座禅用の座布団を使って正しい姿勢を保ち、無の心境になって行いました。後半には警策（きょうさ）を体験しました。たたかれた音は痛そうに聞こえますが、実際には痛みはそれほどでなく、すがすがしい気持ちになりました。

昼食では「食べる」について学びました。食べ物の命を「いただきます」。そして最後に「ごちそうさまでした」。「ちそう」は走り回るという意味があり、身体を使って動き回って食材を集め工夫して美味しいものにすることです。命のある肉や魚、野菜などへの感謝の気持ちをいつも意識して有難く食事をとることの大切さをかみしめて食べました。

午後は宮沢賢治の「雨にも負けず」の視写を行いました。参加した児童にとっては長文でしたが、最後まで頑張って書く姿が印象的でした。視写の最後には、自分の今の気持ちや自分の思いを書きました。参加者からは、「座禅で自分を見つめ、新しいことに気がきました。」「座禅は大変ですが無心になれてゆっくり時間が感じられました。」「次回も参加したいです。」などの感想がありました。

(岡田義生)



第6回科学教室 「秋の自然観察」 ～温暖化とどんぐり 果たして～

11月2日(土) 於：佐鳴湖公園

10月には、日本各地で台風による洪水災害が起きました。地球温暖化による気候変動の影響ではないとも言われています。

佐鳴湖公園の木々の紅葉もどんぐりの成長も進んでいませんでした。そのため、始めに気候変化と植物の生長について子供たちと考えてみました。



気温35度の猛暑日を過ごしてきた子供たちは、実感として暑い夏、なかなか来ない秋をとらえていました。植物にも大いに影響を与えていることも素直に感じ取ることができました。どんぐりが少ないことが前提のスタートです。

例年同様に、ブナ科の木の実8種類をしっかりと分類して集めることを目標としました。子供たちは集中して、堅果・殻斗・葉の3つ観点で、同定しながら採集していくことができました。

アラカシとシラカシとを見

比べ、堅果の頭部の形状から「ほんとだ。違う、違う。」と同定できるようになりました。シリブカガシを磨きピカピカにして楽しむこともできました。すでに、発芽しているコナラの堅果もあり、木の実は、森や林の中で長く営まれ命のつながりの原点であることを確認することができました。

毎年この時期に行う活動だからこそ、年による自然の変異を感じます。温暖化による気候変動が受粉、どんぐりの成長等、四季のズレを生じさせていることが危惧されます。

(加藤泰弘)



内科・消化器科

西脇医院 院長 西脇雅子

中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

西遠は「未来を拓く女性」を育てます。

伝統の中高一貫教育/地域唯一の女子教育/新しい課題探究型学習

入学相談は随時受け付けております。

パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気は是非御覧ください。



静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校

TEL:053-461-0374 WEB:www.seien.ed.jp

第2回 親子公園探検隊 真夏の自然 in 浜松城公園 「セミしぐれ」大空を舞うトンボたち

7月28日(日) 於：浜松城公園

開会式はクマゼミとニイニゼミの声のシャワーを聞きながら行われました。15家族、37人の親子が参加し、4つのグループに分かれて自然観察を行いました。

浜松城公園の中央芝生広場の中央部を見ると、高さ2～5mほどの所で橙黄色のトンボ約20頭が乱舞しています。よく見ると地上には降りてきません。

「あのトンボは何だろうか？」と問いかけると、小3男子児童が「ウスバキトンボだよ。」と言って、開会式の前に捕らえたトンボ2頭をかごから出し、参加者にも見せてくれました。そのおかげで副性器があるトンボが♂、副性器がないトンボが♀と見分けることができました。

このウスバキトンボは世界で最も広く分布するトンボで、海を渡ってくるほど飛翔力があり、夏になると南西諸島から北海道まで見られます。新聞社主催の少年の船が伊勢湾から外洋に出たときに、甲板から高さ約3mのところで飛翔を続けている3頭のウスバキトンボを見たことや、飛翔することに特化したヤンマ科と同じくこのウスバキトンボもぶら下がって止まることを話しました。これは胸の筋肉



の大部分が翅を動かす方に使われ、脚でからだを支えることにあまり配分されないためと考えられています。

中央芝生広場から西の薄暗い林内に進むと、突然ブルブルと羽音が聞こえ、アオキの小枝に中型のヤンマが止まりました。よくよく見ると、水色で宝石のような輝きのある複眼と腹部のくびれが特徴のカトリヤンマ♂がぶら下がるようにして静止していました。ヤンマの止まり方は見たことがないと子供たちも保護者たちも興味津々です。トンボを刺激しないようにと、息を潜めて場所を交代して、グループ全員が緑色の大きな複眼をもった美しいカトリヤンマを間近に見ることができました。



次にクマゼミのかわりにアブラゼミの声が目立ち始めるころになると、私たちのグループは日本庭園の池に着きました。ギンヤンマ♂が池の水面近くを行ったり来たりして早を求めてパトロールしていました。大型のギンヤンマが高速で力強く飛んだり、ホバリングしたりと休まないで大空を飛翔する姿に参加者たちは感激していました。

そして閉会式では今年初めてツクツクボウシの声を聞くことができました。セミしぐれの中、大空を舞うトンボたちの姿を堪能した探検隊でした。

(堀内 映)

第3回親子公園探検隊 晩秋の自然 in 浜松城公園

～ 秋の実りを肌で感じて～

11月30日（日）於：浜松城公園

今回のテーマは秋の植物。今年の浜松城公園は、木々が美しく色づき、たくさんの木の実を実らせていました。浜松城公園には、たくさんのどんぐりの木があります。アラカシ、シラカシ、コナラ、アベマキ、ウラジロガシ、イチイガシ等のどんぐり採集をしました。



一見似ているどんぐりでも、殻斗の模様が違ったり、微妙に形が違ったりします。ただやみくもに捨てるのではなく、一つ一つ見比べながら大事そうにしまう子供の姿が見られました。

。「イチイガシの木は、公園内でも1本しかなく、どんぐりもなかなか拾えません。」その講師の言葉に、大人も子供も、まるで宝石を探すかのように熱心に地面を見つめます。奇跡的に2個のどんぐりを見つけることができました。発見した際の喜びはひとしおです。

途中、太平洋戦争の慰霊碑の前では、協会委員の服部文枝氏から戦争体験の話の伺いました。爆撃機からなんとか逃げた話、多くの遺体がある中、学校まで歩いて通った話など、参加者は真剣に話に耳を傾けました。実体験の話を聞いて戦争の悲惨さを改めて認識しました。

紅葉した落ち葉拾いでは、イチョウ、イロハカエデ、ニシキギ、サクラ等の葉を拾い集めました。黄色、橙色、朱色と鮮やかに色づいた葉からは、自然が作る美しさを感じました。活動後に、浜松城公園では拾えないオニグルミやトチの実を参加者にお土産として配りました。子供たちは秋の実りを握りしめて、とてもうれしそうに帰っていきました。

（藤崎 徹）



印刷のエキスパート
株式会社開明堂

TEL <053> 471-6231 (代) FAX 473-0778

遠州鉄道グループ
ホテルコンコルド浜松

自主研修会 in 豊川 川が変われば石も変わる

～岩石分類の難しさと面白さに触れる～

参加者15名 9月14日(土) 於：新城市桜淵公園、鳳来寺山自然科学博物館



午前中は、新城市桜淵公園豊川の川原で参加者一人一人が、自分の興味ある石を採集しました。科学教室で天竜川の岩石分類を指導している私たちですが、天竜川には見られないような色や模様 of 石が色々あり、それぞれが、気になった石を持ち寄って、午後の研修先に向かいました。

午後からは、鳳来寺山自然科学博物館の学芸員にそれぞれが持ち寄った岩石の同定をしていただきました。

同定を進めていく中で、「これも〇〇岩?」といったような驚きが多くありました。天竜川で見られるものとは全く色や模様等が異なっていたからです。川が異なると、石の様相も異なり、これまでの知識だけでは分類できないものがたくさんあることを再確認しました。

その後、岩石分類のポイントを説明していただき、新たな石の見方を学ぶことができました。異なる川原の石を観察することで、石の面白さ、分類の難しさを実感することができました。この川原で作成した岩石標本は、科学教室等への今後の活動に生かされると確信しています。

(袴田正義)



〈日本ユネスコ協会連盟からのお知らせ〉

日本ユネスコ協会連盟機関誌『ユネスコ』のWEB掲載化

○日ユ協連に会員登録されている方(※)あてに年4回(4・7・10・1月号)郵送されていた「機関誌『ユネスコ』」は2019年10月号よりホームページ上で閲覧に変更し、紙媒体での郵送はしていません。2020年度から全面的に移行し、WEB掲載時期は、4月、10月、1月となります。

また、新たに「活動レポート」を7月頃に送付します。

○機関誌発行のお知らせは、メールマガジンで配信しています。是非、登録(無料)をお願いします。登録サイトは当連盟のトップページ下にあります。

※浜松ユ協会員では、年会費として6,000円以上納めている方が対象です。

あなたも一緒に 会員募集

問い合わせ・申し込み
事務局 三輪 宜弘
■ 053-425-8643

会員動向 会員数(19.11.4現在)

賛助	法人	維持	理事
29	1	6	41
普通	学生	合計	
43	0	120	



※再生紙を使用しています。